

Special Report

第59期定時株主総会

しょうげき～衝撃～

Show Get-key

オートバックスセブン

株主通信

Vol.16

第60期 第1四半期 事業報告書 2006年4月1日から2006年6月30日まで

「車好きのユートピアをつくる」 「世界中のドライバーを車好きに変える」

二つの大義を実現するため、私たちオートバックスグループは、
カーライフスタイルの創造者として行動します。

オートバックスグループ創業の原点、それは「お客さまに車の楽しさをもっと伝えたい、お客さまのカーライフをもっと豊かにしたい」という熱い思いです。オートバックスブランド誕生から30年以上が経過し、グループ500店舗を超える業界のリーディングカンパニーへと成長した現在でも、この気持ちは決して変わりません。

車はただの乗り物ではなく、私たちの人生を豊かに変え、生活を楽しくしてくれるパートナーであるということを伝

えたい。車が秘めている楽しさをできるだけ多くの方と分かち合い、世界中の人に車を好きになってもらいたい。そして車のある生活をもっともっと楽しんでワクワクしてほしいのです。

私たちはこれからも、人と車が調和した社会とより充実したカーライフを提案し続けることで、お客さまと車の楽しさや走る喜びを共有するとともに、お客さまの満足とオートバックスグループの成長のために挑戦を続けます。

目次

1... CEO Message

ごあいさつ

2... Special Report

株式会社 オートバックスセブン

第59期定時株主総会のご報告



4... Feature

わかりやすく、選びやすく、買いやすい
売場づくりを推進

6... Topics

トピックス

- ・車内で楽しむ地上デジタル放送
- ・「テクノキューブ」が続々開設
- ・澳徳バックス(オートバックス) 杭州石祥店がオープン

8... Financial Section

財務報告

12... Investor Information

株式情報

13... Corporate Data

会社情報

見直しに関する注意事項

この株主通信に記載してある戦略や今後の事業展開など歴史的事実に基づいていない部分は、現在入手可能な情報から得られた経営者の判断に基づいたものであり、実際はさまざまなリスク要因の変化により異なる結果となることがあります。

個人情報保護方針

株式会社オートバックスセブンは、個人情報保護の重要性に鑑み、個人情報を適切に保護するため、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報を適切かつ安全に取り扱います。

CEO Message ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。オートバックスセブン株主通信「Show Get-Key」Vol.16をお届けします。今号では、第60期第1四半期の財務・業績状況、本年6月に開催した第59期定時株主総会および当社グループで取り組んでいる「お客さまにわかりやすい売場づくり」の3点を中心にご報告します。

当期は、カー用品販売業からトータルカーライフサービス業への転換による企業価値の向上を目標とする、中期経営計画の2年目に入りました。前期に築いた基礎の上にさらなる発展を実現すべく、計画の実行、推進を行ってまいります。

■当第1四半期のご報告

「新たな発展ステージへ」を経営方針に掲げ、当第1四半期は、カー用品販売に加え、車検・整備、車販売のさらなる強化に取り組みました。全国的に天候不順の週末が多く来店客数は総じて減少傾向となりましたが、私たちの取り組みが奏功し、前年同期比で増収を達成することができました。主にタイヤ・ホイールおよび

カーエレクトロニクス、車検・整備などのサービス部門の売上が好調に推移し、売上高は前年同期比3.0%増の614億59百万円となりました。利益面では、サービス部門における売上構成比の拡大や売上原価低減による粗利率の改善が寄与し、売上総利益は同8.2%増の182億37百万円、営業利益は同14.3%増の30億69百万円、経常利益は同4.3%増の40億7百万円と、それぞれ増益を確保しました。一方、四半期純利益については、法人税等調整額の変動により21億12百万円と同4.7%減の減益となりました。

■中期経営計画2年目も順調にスタート

このように、中期経営計画2年目も順調にスタートを切ることができました。その柱となる「エリアドミナント戦略」「トータルカーライフ事業戦略」「海外事業戦略」を引き続き強力に推進し、企業価値向上に努めてまいります。株主の皆さまにおかれまし



ては、「車好きのユートピアをつくる」「世界中のドライバーを車好きにかえる」という大義のもと、トータルカーライフサービス業を目指すオートバックスグループへの変わらぬご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2006年9月

住野 公一

代表取締役 CEO

株式会社 オートボックスセブン

第59期定時株主総会のご報告

当社は2006年6月28日、ホテルイースト21東京（東京都江東区）において、第59期定時株主総会を開催しました。今回は第59期定時株主総会についてご報告します。



個人株主の皆さまを含め 100名近くが来場

当日は、初めて株主総会に参加したという個人株主の皆さまを含め、100名近くの株主さまがご来場され、議決権行使書を前もって提出していただいた株主の皆さまを含め、2,084名（議決権の数33万291個）の方にご出席いただきました。

株主総会は、株式会社における最高の意思決定機関です。毎事業年度終了後、一定の時期に招集する定時株主総会と、不



PRコーナーでは、当社の事業内容をより良く理解していただくための資料配布などを行いました

定期に開催される臨時株主総会の2種類があり、株主は1株または1単元株ごとに1票を有し、通常は多数決（一定の事項については特別多数による決定）によって議事を決定します。今回、当社が開催した株主総会は前者の定時株主総会にあたります。

より多くの株主さまの ご出席を目指して

第59期定時株主総会は、定刻の午前10時に、議長を務めた代表取締役CEO住野公一の開会宣言によってスタート。第59期営業年度の決算報告などを行った後、株主の皆さまとの質疑応答を行いました。その後、利益処分案や会社法施行に対応した定款変更など7つの議案すべてを原案通りで承認・可決し、1時間8分で終了しました。

また、会場にはPRコーナーを併設し、お飲み物のサービスのほか、当社の事業内容をより良く知っていただくための資料配布や、2006年5月24日に開催したアナリスト・機関投資家向け決算説明会の模様のVTR放映などを行いました。

当社では、株主の皆さまとの対話を重要な経営課題のひとつに位置づけており、一人でも多くの株主の皆さまに株主総会へご出席いただくことを目指しております。またこの場をお借りし、改めて第59期定時株主総会にご出席いただきました株主の皆さまに、御礼申し上げます。

質疑応答

Q&A

今回の株主総会では、当社に対するさまざまなご質問をいただきました。誌面の都合により、すべてを掲載できないのは残念ですが、その一部をご紹介します。

Q¹ 女性株主が少ないのはなぜでしょうか。

A¹ カー用品を購入される方は車好きの男性が多いことが理由のひとつにあると思います。しかし、最近の統計を見ると女性が主体的に車を選んでいる状況にあり、当社は女性のお客さまを増やすことに注力しています。これにともない、今後は女性の株主さまも増えるのではないかと考えています。



Q² 休日のオイル交換やタイヤ交換は、待ち時間が長い場合があります。待ち時間を有効に使えるようにする施策は何かお考えでしょうか。

A² 一部の店舗ではお待ちいただく設備が不十分なところもあり、ご迷惑をおかけして誠に申し訳なく思っています。現在、当社では従来のオートバックス業態に加え、アメリカン小物雑貨や音楽CD販売コーナー、軽飲食スペースなどを設けたスーパーオートバックス業態の出店を行い、待ち時間を有効に過ごしていただけるような店舗づくりに取り組んでいます。今後、お客さまの待ち時間をできるだけ短くすることと、待ち時間を無為に過ごすことがないよう、さらなる工夫を考えていきたいと思っています。

Q³ カー用品には「AV機能複合型」「地上デジタル放送対応ナビゲーション」など、女性や高齢者にはわかりにくい商品も少なくありません。女性や高齢者向けに何らかの施策をお考えでしょうか。

A³ 女性層や高齢者層は今後の当社が拡大すべきマーケット対象のひとつです。現在、こうした方々にわかりやすい売場作りを課題に挙げ、さまざまな施策に取り組んでいます。



※本誌6ページTOPICSにて「地上デジタル放送」についての記事がございますので、そちらも併せてご覧ください。

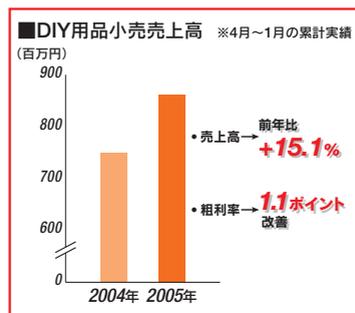
わかりやすく、選びやすく、 買いやすい売場づくりを推進

当グループの店舗では、『わかりやすさ(選びやすさ)』の付加をキーワードに、初めてご来店されるお客さまでも利用しやすい魅力のある売場づくりに取り組んでいます。今回はその一例として、グループ全体で推進している「カテゴリーマネジメント」を導入した売場をご紹介します。

カテゴリーマネジメントで 商品構成や売上を管理

当グループでは、本部主導で商品を単品ごとではなく用途・機能別に品揃えを行い、メーカー、店舗、本部が三位一体となって管理するカテゴリーマネジメントを2003年5月から本格的に導入しました。これにより、最大の目的である品揃えの充実したわかりやすい売場を提供すると同時に、メーカー、店舗、本部のすべてがメリットを得られる仕組みを構築することができました。

具体的には、店舗では安定した売上と販促物の共通化によるコストダウンが可能となる一方、本部は在庫回転率や粗利率を向上させることができます。



メーカーとしても、オートバックスグループ約500店舗への安定した供給を確保し、生産コストの削減とともに、商品納入によつ

て把握した現場ニーズを新商品開発に活かせる等のメリットを得ることができます。

工夫を凝らした売場づくりで売上が向上

一例として、これまでお客さまが自分自身で車を手入れするためのDIY用品を中心に、ボディ補修商品、洗車用品のワックスなどの商品分野で売場を順次改善し、成果をあげています。

例えば、DIY用品の開発・製造・販売を展開するイーモン工業株式会社と協力し、DIY用品売場を大きく改革しました。お客さまにとってわかりやすい、選びやすい売場を追求した結果、売上、粗利率も向上するという相乗効果も生み出しています。

今期はインテリア用品売場にも注力

今期は、特にシートカバーやフロアマットなどを扱うインテリア用品売場のカテゴリーマネジメントに注力し、全店に導入することを計画しています。当グループでは、このようにお客さまから見てより魅力のある売場づくりに努めることで、さらなる売上と収益の拡大を目指しています。

DIY用品売場の改善例

全体的にソフトなイメージを演出し、このコーナーへの「入りにくさ」を徹底的に排除する

作業手順や必要な道具を説明する小冊子を配置し、「車を触ることは簡単!楽しい!」と訴求



大きな文字で売場をアピール。車を自分で触ることへの興味を促す



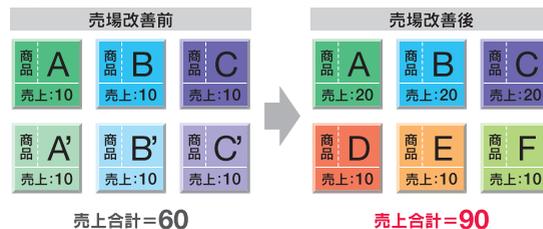
背景：

- 改善前のDIY用品売場は「目的買いコーナー」となっており、お客さまに対する店舗からの積極的な提案がなかった。
- 機能が重複する商品が散見され、棚の利用効率が悪かった。

改善の目的：

- メーカーと協力して生産・流通コストを低減し、お互いの利益の拡大につなげる。
- データに基づく商品改廃と、重複する同機能商品の間引きを行い、別機能の商品を導入し売上の向上を図る。
- 「目的買いコーナー」から「提案型コーナー」への変身で、売場の魅力と売上の向上を図る。

■商品改廃の手法



※AとA' = 同機能商品

車内で楽しむ 地上デジタル放送



■地上デジタル放送とは？

地上デジタル放送とは、地上波のUHF帯を使用して開始されたデジタル放送です。現在では、2011年7月のアナログ放送終了にともなう完全移行に向け、受信可能エリアが順次拡大されています。

地上デジタル放送では、デジタルハイビジョン放送の番組や双方向番組の受信・視聴が可能となるだけではなく、走行中の車内でも高画質・高音質の放送を安定的に楽しむことができます。アナログ放送受信が不安定な車内だからこそ、地上デジタル放送は映像や音声を飛躍的に向上させることとなります。さらにドライブに役立つ交通・天気などの情報を入手できることに加え、今後は情報通信メディアと連携した新しいサービスなども期待されています。

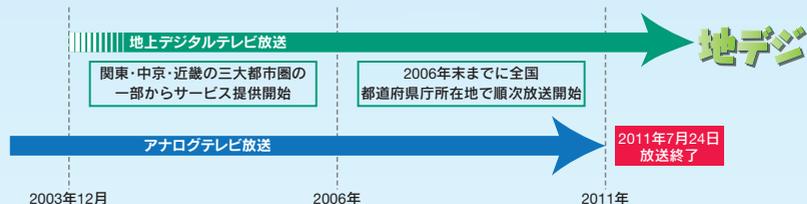
また、2006年4月1日から関東・近

畿・中京の三大広域圏と13の県では、地上デジタル放送のサービスのひとつとして、カーナビゲーションや携帯電話などの移動体向けに、映像やデータ、音声を発信する「ワンセグ」放送も始まっています。

■あなたの車で受信するには？

地上デジタル放送は、専用チューナー内蔵のカーナビゲーションもしくはカーテレビを取り付けるか、現在ご使用のカーナビゲーションもしくはカーテレビに専用チューナーを接続していただくことで受信が可能になります。

当グループ各店舗では、お客さまのニーズに応じてカーナビゲーションやチューナーなどの商品を選んでいただけるよう関連商品を多数取り揃えています。また、デジタル放送の高画質・高音質を実際にご体験していただくため、従来のアナログ放送と見比べることができる展示も行っています。もちろんご購入いただいた商品はその場でお取り付けしています。ぜひ一度当グループ店舗にお立ち寄りいただき、話題の地上デジタル対応商品をご覧ください。



《参照》社団法人 地上デジタル放送推進協会 (D-PA) <http://www.d-pa.org/>

「テクノキューブ」が続々開設

当グループでは、2006年4月に『オートバックス吹田泉町テクノキューブ』、同じく6月に『オートバックス大田馬込店テクノキューブ』を新たに開設しました。

車検・整備と板金・塗装の独立型専門施設「テクノキューブ」の展開は、当グループが「車検・整備」事業強化の一環として注力しているものです。現在、車検やカーケアメニューを実施している店舗においても、作業台数の増加にともない、整備作業スペースが不足している店舗が増加しており、同施設は、そのような店舗において車検や板金などの、各種サービスメニューを行うためのピット設備として、既存店舗の近隣に別棟を設けるものです。満足度の高いサービスや既存店舗に隣接した設置により、新たなお客さまにも当グループ店舗に足を運んで頂ききっかけとなっています。



中国大陸4店舗目、ブランド店としては3店舗目となる『澳德巴克斯(オートバックス)杭州石祥店』

を2006年4月にオープンしました。杭州石祥店の周辺は車の購入ブームが広がっているほか、中古車の流通量も中国大陸一と言われるなど、今後のカー用品市場の成長が見込まれている地域です。



澳德巴克斯(オートバックス) 杭州石祥店がオープン

当グループでは、2004年4月の上海市からスタートした中国での店舗展開においても、「トータルカーライフサービス」をキーワードとして充実したカー用品の品揃えやピット作業はもちろん、社員教育を徹底することで日本国内と同等のサービスを提供しております。

▼ニュースリリース

4月

- ETCはお得! 5,000円お返ししますキャンペーン実施
- 「2006年度全日本選手権フォーミュラ・ニッポン」シリーズサポーター決定
- 『オートバックス酒田店』を移転新築オープン(山形県)
- 『スーパーオートバックス大宮バイパス』を新規オープン(埼玉県)
- 『オートバックス岐阜北店』を移転新築オープン(岐阜県)
- 「S.I.S東京スペシャルインポートカーショー2006」出展

5月

- Panasonic製地上デジタル放送機能拡張対応「カーテレビセット」新発売

6月

- 日本ビクター社製のカーオーディオの専売モデル「JVC」シリーズ追加新発売
- 『オートバックス天草本渡』を新規オープン(熊本県)
- 『オートバックス菊川店』を新規オープン(静岡県)
- “オートバックス恒例! 夏祭り”第1弾「カーライフはわくわくドキドキ夏のキャンペーン」実施
- “オートバックス恒例! 夏祭り”第2弾「スーパーアグリF1チームスポンサード記念キャンペーン」実施

ニュースリリースの詳細は、当社のホームページで閲覧いただけます。

<http://www.autobacs.co.jp/>

財務報告 *Financial Section*

連結貸借対照表

単位：百万円

	第59期 第1四半期 (2005年6月30日現在)	第60期 第1四半期 (2006年6月30日現在)	第59期 (2006年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産	110,206	108,294	112,020
現金及び預金	38,679	23,188	34,256
受取手形及び売掛金	17,358	17,683	12,914
有価証券	18,115	30,775	28,682
たな卸資産	19,389	19,275	17,015
繰延税金資産	2,467	2,008	2,794
未収入金	11,706	12,682	14,285
その他	3,205	3,254	2,589
貸倒引当金	△715	△575	△520
固定資産	97,626	117,309	115,687
有形固定資産	50,297	49,740	49,794
建物及び構築物	23,189	21,137	21,613
土地	20,927	22,330	22,330
その他	6,180	6,271	5,849
無形固定資産	4,125	11,248	10,899
投資その他の資産	43,203	56,319	54,993
投資有価証券	13,133	27,619	26,513
長期貸付金及び長期差入保証金	26,089	24,339	24,575
繰延税金資産	4,845	4,343	4,034
その他	1,681	1,523	1,529
貸倒引当金	△2,548	△1,506	△1,659
資産合計	207,833	225,603	227,707
(負債の部)			
流動負債	37,897	42,565	44,046
支払手形及び買掛金	19,805	21,107	16,094
短期借入金	2,533	4,110	4,768
未払法人税等	2,197	965	4,800
その他	13,361	16,382	18,382
固定負債	19,117	21,250	21,655
社債	8	—	—
転換社債型新株予約権付社債	10,000	270	270
長期借入金	344	11,036	11,407
退職給付引当金	355	211	275
役員退職給与引当金	429	402	404
事業再構築引当金	—	955	860
その他	7,979	8,374	8,437
負債合計	57,015	63,816	65,701

単位：百万円

	第59期 第1四半期 (2005年6月30日現在)	第60期 第1四半期 (2006年6月30日現在)	第59期 (2006年3月31日現在)
(純資産の部)			
株主資本	—	161,316	—
資本金	—	33,998	—
資本剰余金	—	34,512	—
利益剰余金	—	97,092	—
自己株式	—	△ 4,287	—
評価・換算差額等	—	△ 37	—
その他有価証券評価差額金	—	156	—
為替換算調整勘定	—	△ 193	—
少数株主持分	—	508	—
純資産合計	—	161,787	—
負債及び純資産合計	—	225,603	—
(少数株主持分)			
少数株主持分	513	—	469
(資本の部)			
資本金	31,958	—	33,998
資本剰余金	32,241	—	34,512
利益剰余金	91,390	—	96,113
その他有価証券評価差額金	224	—	744
為替換算調整勘定	△389	—	△221
自己株式	△5,120	—	△3,610
資本合計	150,304	—	161,535
負債、少数株主持分及び資本合計	207,833	—	227,707

連結損益計算書

単位：百万円

	第59期 第1四半期 (自 2005年4月 1日 至 2005年6月30日)	第60期 第1四半期 (自 2006年4月 1日 至 2006年6月30日)	第59期 (自 2005年4月 1日 至 2006年3月31日)
売上高	59,656	61,459	240,207
売上原価	42,804	43,222	166,257
販売費及び一般管理費	14,166	15,167	60,312
営業利益	2,686	3,069	13,637
営業外収益	1,648	1,472	5,252
営業外費用	492	534	1,967
経常利益	3,841	4,007	16,922
特別利益	55	159	774
特別損失	135	216	3,831
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,760	3,950	13,865
法人税、住民税及び事業税	2,178	972	6,454
法人税等調整額	△617	862	△447
少数株主利益(△)・損失	16	△3	1
四半期(当期)純利益	2,215	2,112	7,860

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	第59期 第1四半期 (自 2005年4月 1日 至 2005年6月30日)	第60期 第1四半期 (自 2006年4月 1日 至 2006年6月30日)	第59期 (自 2005年4月 1日 至 2006年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,801	△1,684	24,136
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,760	3,950	13,865
減価償却費	905	1,113	4,935
減損損失	—	—	1,151
売上債権の増減額(増加:△)	△1,946	△3,070	△22
たな卸資産の増減額(増加:△)	△2,110	△2,245	10
その他	4,240	3,214	6,999
小計	4,848	2,963	26,940
利息及び配当金の受取額	109	123	288
利息の支払額	△16	△54	△67
法人税等の支払額	△1,140	△4,716	△3,024
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,605	△4,709	△26,996
有形及び無形固定資産の取得による支出	△598	△2,658	△11,400
有価証券及び投資有価証券の取得・売却	△1,773	△2,214	△16,988
その他	766	164	1,392
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,273	△2,677	5,177
短期借入金の増減額(減少:△)	△2,313	△612	△299
長期借入による収入	—	—	13,000
長期借入金の返済による支出	△99	△416	△1,848
自己株式取得による支出	△2	△686	△3,909
配当金の支払額	△851	△1,004	△1,774
その他	△6	43	9
現金及び現金同等物に係る換算差額	△39	1	102
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△1,116	△9,069	2,420
現金及び現金同等物の期首残高	51,150	53,622	51,150
連結子会社増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	51
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	50,033	44,552	53,622

注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 41,926百万円

2. 1株当たり当期純利益 54円71銭

3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

業態別店舗数

	第59期 第1四半期 (2005年6月30日現在)	第60期 第1四半期 (2006年6月30日現在)	第59期 (2006年3月31日現在)
スーパーオートバックス:	61	66	65
Type I	6	6	6
Type II	55	60	59
オートバックス	406	405	403
オートハローズ	15	11	11
オートバックス走り屋天国セコハン市場	26	28	28
オートバックスエクスプレス	5	6	6
海外(スーパーオートバックス、オートバックス)	12	19	19
合計	525	535	532

要約個別貸借対照表

単位:百万円

第59期 第1四半期
(2005年6月30日現在)

第60期 第1四半期
(2006年6月30日現在)

第59期
(2006年3月31日現在)

(資産の部)			
流動資産	104,426	100,683	104,176
固定資産	102,290	123,779	121,086
有形固定資産	41,080	41,141	41,461
無形固定資産	3,322	5,159	4,857
投資その他の資産	57,887	77,478	74,766
資産合計	206,717	224,462	225,262
(負債の部)			
流動負債	36,454	40,787	42,194
固定負債	18,264	20,981	21,236
負債合計	54,719	61,769	63,431
(純資産の部)			
資本金	—	33,998	—
資本剰余金	—	34,512	—
利益剰余金	—	98,301	—
自己株式	—	△4,264	—
評価・換算差額等	—	146	—
純資産合計	—	162,693	—
負債及び純資産合計	—	224,462	—
(資本の部)			
資本金	31,958	—	33,998
資本剰余金	32,241	—	34,512
利益剰余金	92,668	—	96,175
其他有価証券評価差額金	219	—	722
自己株式	△5,089	—	△3,578
資本合計	151,997	—	161,831
負債及び資本合計	206,717	—	225,262

要約個別損益計算書

単位:百万円

第59期 第1四半期
(自2005年4月1日
至2005年6月30日)

第60期 第1四半期
(自2006年4月1日
至2006年6月30日)

第59期
(自2005年4月1日
至2006年3月31日)

売上高	51,626	53,556	203,056
売上原価	41,564	42,826	160,343
販売費及び一般管理費	6,351	6,566	29,075
営業利益	3,710	4,162	13,637
営業外収益	989	1,259	3,530
営業外費用	436	436	1,475
経常利益	4,263	4,985	15,692
特別利益	98	434	873
特別損失	287	192	4,761
税引前四半期(当期)純利益	4,074	5,227	11,805
法人税、住民税及び事業税	1,857	790	5,200
法人税等調整額	△318	1,179	△360
四半期(当期)純利益	2,535	3,258	6,965
前期繰越利益	2,854	—	2,854
中間配当額	—	—	922
四半期(当期)未処分利益	5,389	—	8,897

注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 31,268百万円
2. 1株当たり四半期純利益 84円38銭

3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株式情報 Investor Information

(2006年3月31日現在)

発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	39,255,175株
株主数	9,482名
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、 ロンドン証券取引所
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-175-417 (住所変更等用紙のご請求) 0120-176-417 (その他のご照会)

名義書換取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

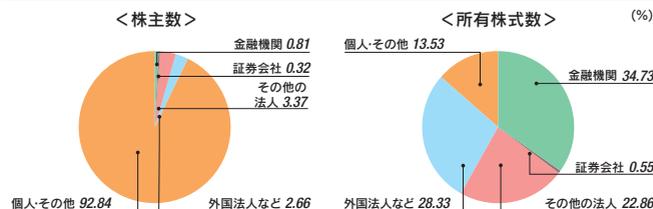
大株主一覧	有限会社スミノホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505019 財団法人在宅医療助成勇美記念財団 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 住野正男 住友信託銀行株式会社(信託B口) 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)
-------	--

(注) 上記以外の名義書換のなされていない株主については、有価証券報告書をご覧ください。

株価推移(大阪証券取引所)



所有者別状況



住所変更の手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きをお願いいたします。株主招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。

ご変更は、住友信託銀行㈱の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主さまについては、お取引の証券会社で変更手続きを行ってください。

株主優待制度について

『オートボックス』、『スーパーオートボックス』などで、1,000円(消費税込み)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円値引)を、3月末日(6月発送)と9月末日(12月発送)の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。

ご参考

- 配布枚数(半期毎): 所有株式数 100株~999株 優待券25枚
1,000株~ 優待券50枚
- 優待券は商品券・他の値引(買い物券、クーポン券、値引券等)を併用の場合、値引き後の金額に対してご利用いただけます。
- 優待券は日本国内のオートボックス、スーパーオートボックス、オートボックス走り屋天国セコハン市場、オートボックスエクスプレスおよびオートハロースの全店舗でご利用いただけます。ただし、オートボックス・コース、海外店舗ではご利用いただけません。
- 優待券は燃料、車両、保険、税金、飲食、タバコ、特価商品などにはご利用いただけません。

※車検につきましては、重量税、印紙代、自賠責保険料、リサイクル料にはご利用いただけません。車検基本料、検査手続き代行料、完成検査料、その他整備工賃、部品代にはご利用いただけます(手続き費用は、一部店舗によって名称が異なります)。

会社情報 Corporate Data

(2006年6月28日現在)

商号

株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)

創業

1947年2月

資本金

339億9千8百万円

主な事業内容

当社は、各種自動車用品部品の委託製作、販売、輸出入を主要事業として、小売総合専門店を直営店とフランチャイズ店で並行して全国にチェーン展開しております。

役員一覧

取締役・監査役

代表取締役

住野 公一^{※1} CEO

取締役

湧田 節夫

経森 康弘

松尾 隆^{※1} CSO

経営戦略推進統括

中田 康雄^{※2} (カルビー(株) 代表取締役社長 兼 CEO、CIO)

宮内 英樹^{※2}

森本 弘徳^{※1} Co-COO

エリアドミナント戦略推進統括 兼 販売促進担当 兼
店舗開発担当 兼 業態開発事業担当 兼 販売促進部長

武田 健一^{※1} Co-COO

トータルカーライフ事業戦略推進統括 兼
海外事業戦略推進統括 兼 カー用品事業担当

監査役

森野 孝太郎^{※3} 常勤監査役

住野 泰士 常勤監査役

野上 明 常勤監査役

田邊 健介^{※3} 監査役(東海労働金庫 常勤監事)

主要な事業所

本社	(東京都江東区)	欧米事業部	(東京都江東区)
北日本エリア事業部	(仙台市泉区)	アジア事業部	(東京都江東区)
北関東エリア事業部	(千葉県市川市)	中国事業部	(東京都江東区)
南関東エリア事業部	(千葉県市川市)		
中部エリア事業部	(名古屋市名東区)		
関西エリア事業部	(大阪府吹田市)		
南日本エリア事業部	(福岡市博多区)		

オフィサー (取締役兼務を除く)

伊藤 浩明	北日本エリア事業部長
小林喜夫巳	北関東エリア事業部長
角倉 正親	南関東エリア事業部長
戸出 譲	中部エリア事業部長
松村 晃行	関西エリア事業部長
江本 吉弘	南日本エリア事業部長
森本 眞臣	U-PARTS事業担当 兼 U-PARTS開発部長 兼 カスタムカー開発部長
釜田 尚文	車検整備事業担当
榎 宏介	C@RS事業担当 兼 C@RS事業推進部長
深山 義郎	新規事業担当
住野 耕三	海外事業戦略推進担当 兼 アジア事業部長 兼 中国事業部長
小平 智志	経営戦略推進担当

※1 オフィサー兼務

※2 会社法第2条第15号に定める社外取締役

※3 会社法第2条第16号に定める社外監査役

さらに

ポイントアップカードが便利になって登場!

全国のオートバックス・スーパーオートバックス・オートハローズ各店舗にてご利用いただけます。

便利1

貯めたポイントがいつでも使える!

お買物100円につき1ポイント。
1ポイントは1円としていつでもご利用いただけます。

※お買物ポイントの有効期限は、ポイント付日から2年経過後の12月31日までとなります。

即時発行
年会費・継続費
無料!

便利2

使えば使うほどお得なカードにランクアップ!



ランクアップ評価はお買物ポイントとは別に下記の内容で点数が付与されます。

お買物金額	お買物100円ごとに	1点
会員継続年数	会員の継続年数1年ごとに	100点
来店回数	お買物の伴うご来店ごとに	10点
タイヤ購入本数	タイヤ購入1本あたり	100点
オイル交換回数	オイル交換1回あたり	100点
車検回数	車検ご利用1回あたり	1000点
お車購入台数	1台あたり	1000点
任意保険ご契約件数	一件あたり	100点
会員のご紹介人数	お一人あたり	100点

便利3

ランクに合わせてお得な特典!

上位ランクほど
お得な特典がいっぱい!



旧カードをお持ちのお客様は
レジにて切り替えます。



オイルカード会員も大募集!

エンジンオイル交換工賃、オイル・エアフィルター交換工賃が何度交換されても**1年間無料!**



当店スタッフにお気軽にお問い合わせください。もしくは店頭にて「ポイントアップカード入会のご案内」をご覧ください。

AUTOBACS SEVEN CO., LTD.

株式会社 オートバックスセブン 東京都江東区豊洲5-6-52 ISTビル 〒135-8717

大豆インクを使用し、古紙配合率100%の再生紙に、水なし印刷をしています。

お問い合わせ先

- IR情報に関するお問い合わせ
経営企画部 電話: 03-6219-8718 e-mail: investors@autobacs.com
- 住所変更等、株式事務に関するお問い合わせ
住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-175-417 (住所変更等用紙のご請求) 0120-176-417 (その他のご照会)
※詳細はp.12をご確認ください